

WHO ファクトシート

ハンセン病

Leprosy

2018年1月

重要な事実

- ・ハンセン病は、らい菌(マイコバクテリウムレプラ)と呼ばれる桿菌によって引き起こされる慢性疾患である。
- ・らい菌はゆっくりと増殖し、潜伏期間は平均的には5年である。ときには自覚症状が1年以内に発現することもあるが、発現までに20年かかることもある。
- ・この疾患は、主として皮膚、末梢神経、上気道粘膜や眼に影響を与える。
- ・ハンセン病は、多剤併用療法(MDT)によって治療可能である。
- ・ハンセン病は未治療のケースとの密接かつ頻繁な接触によって、鼻や口からの飛沫を介して感染する。
- ・未治療のハンセン病は、皮膚、神経、手足、目への進行性で永久的な傷害を与える原因となる。
- ・WHO6地域、145カ国からの公式な数値では、2016年世界全体で新たなハンセン病症例の登録数は216,108例であった。
- ・2016年年末での173,358例に基づくと、症例検出率は0.29/10,000となる。

本件ファクトシートについては厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)でも全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Leprosy ファクトシート原文は [こちら](#)